

■ 平成 29 年度「近畿知財塾（第 7 期）」卒塾会合

開催日：平成 30 年 1 月 19 日（金） 14 時～17 時

場 所：大阪工業大学 梅田キャンパス会議室 301

次第

1. ファシリテータ（小倉先生）、アドバイザー（西井先生）による開会あいさつ
2. 塾生による卒塾レポートの発表、採点
— 休憩（10 分） —
3. ファシリテータ、アドバイザーによる総評など
ファシリテータ 特許業務法人グローバル知財 代表・弁理士 小倉啓七氏
アドバイザー 大阪工業大学 知的財産学部 教授 西井光治氏
4. 卒塾レポート 優秀者表彰
5. その他連絡事項など

塾生による卒塾レポートの発表、採点

- 各塾生が、レポート提出時に申告した発表時間を基準としてレポートを発表。（出席者 12 名）
- 出席した塾生、アドバイザー、ファシリテータ、知的財産室長が上位 3 位までを決定。（3 位に限り 3 名まで）
- 第 1 位：20 点／第 2 位：10 点／第 3 位：5 点で点数付けし、ファシリテータ及びアドバイザー、知的財産室長は 3 倍で計算して、参加者の合算で採点。
- 採点基準は、①発表及び資料がわかりやすかったか、②塾で学んだ内容の中から、実際に日々の業務に活かすことができたか、③今後の取組に具体性があり、かつ企業の経営力向上が期待できる内容であるか、の 3 点。

当日の様子



左：西井光治氏

右：小倉啓七氏

卒塾レポートに対するアドバイザー、ファシリテータの総評

<西井先生>

- 皆さんの発表は非常に興味深く、参考にしたいと思う内容がたくさんあったように思っている。これらは、皆さんの「実践します」という宣言であると捉えているので、ぜひ実践して欲しい。
- しかし、このような新しい取組を社内でやるのは非常に苦勞が多いものである。私も企業人の時に、知財にまつわる改善策を実践する際には苦勞を重ねてきた。2～3 年かかることもあるかもしれない。
- また、企業内の知財担当としては一人だけ、という「ひとり知財」の方も何人かおられたので、できるだけ仲間をたくさん募ってミッションを与えながら楽しんで取り組んでいくこと、あるいは社長

など経営層へ知財の重要性等をうまく説得していくことで、社内全体で知財活動に取り組みやすい環境づくりをすることが重要だろう。

- 社会人の方々が企業を背負って集まり、学びあう場はとても貴重だと思うので、次年度以降も後任がおられる企業は参加いただくと良いだろう。

<小倉先生>

- 半年間で6回開催はあつという間で、「もっと勉強したかったな」と思われる人もおられるかもしれない。
- 知財に対する意識は、それぞれの置かれた立場や企業の環境などにより異なるものである。知財に対する意識の異なるいろんな人の話を聞く中で、様々な気づきがあり、中には今後の進むべき道筋にも影響を与えるようなこともあったのではないだろうか。
- また、知財について勉強したり実務を担当したりすると、視野が広がっていくものである。例えば、開発担当者であれば、技術開発を進める中で、知財の知識からこれまでとは違う気づきを得ることもあるだろう。
- 知財担当者が集まる機会は、中小企業ではあまり多くない。こういう場に集まり、得た知識や人脈は、きっと皆さんの今後の財産になるはずだと信じている。

【近畿経済産業局・コメント】

- 皆さんの発表を聞いて、皆さんが知財塾で学んだ知識を、実際に企業それぞれのテーマで活用・実践し、さらには今後取り組んでいこうという意欲を持っておられることを知ることができ、知財塾の開催意義を改めて実感した次第である。
- 特許庁では、近年、中小・ベンチャー企業への支援に注力している。近畿経済産業局でも、むしろ特許庁の先に行く形で、皆さんからのご意見を吸い上げつつ、支援を進めていくことができればと思っている。
- 本当に短い間であったが、ご参加いただき、感謝申し上げます。

以上